



芸能界では親友は育たないといわれますがここに、こんなにもお互いの仕事を尊敬しあい心を感じ合っているお二人がいます！

逢いはじめは14才ネ！

チエミ (フスマの向うから) 世紀の美女が行くからね。

ひばり (ハミングする)

チエミ 伴奏もう少し大きくしてよ。

ひばり ララララ……(さっそうと入る江利さんに) おお、すてき。あらいいわ、この色、このよさ。

チエミ 失礼。(二人で抱き合う)

ホホホホ……奥さん、おかしいんじゃないですか(笑)

ひばり やめてよ(笑)。くすぐったいわ、むずむずする(笑)

チエミ これ(とドレスをさして)

まだダーリンもだれも見っていないの、キサンがプレゼントしてくれたんだもの。

ひばり ほれほれするわよ。

チエミ あんまりもうこれ以上惚れられていただかなくても……惚れ殺されちゃうと困るから(笑) キサンはきょうは十六くらいに見えます。

赤いリボンかわいいわね(笑)

ひばり そうなのよ、きょうはセブンティーンの気持……(笑)

チエミ キサン、どうしてきょうは爪塗ってるの。映画で塗ってるの？

ひばり 今日は撮影休みだったの。

チエミ だから塗ったの。キサン、マニキュアしてこないかなって思っていたの。(二人で爪を見比べる)

ひばり 爪の色キサンと同じね。でも、キサン、キサンって両方で言う

から知らない人が聞いたら、何のことだろうと思うわね。でもほんとうにいい言葉だと思うわ。ほんとうの言葉の意味からいえばさ、ねえ、貴様なんだから……少々乱暴だけど、あたしたちが言うときそんな感じしないわね。(笑)

チエミ いい言葉使ってる……(笑)

ひばり そう。キサン、キサン、ドー、ドー……(笑)

チエミ ドー、ドー(笑)

ひばり これもなに言っているかわからないでしょうね(笑)

チエミ あなたとあたしの合言葉、ドー……(笑)

ひばり (笑いこぼる) キサン、いくらかくれればいいこと教えてやる。十朱幸雄さんがこれをセットで聞いたやつたの。あたしがセットでドーっていったら、それなんですかっていって、こんどテレビの「ポップステップお嬢さん」でキサンの前で言うから、だまっていて下さいねって。

チエミ イヤッー、本番のときに急にやられたら、あたしきつと、ふいちゃうわ。(笑) 社長なんていって

いられなくなっちゃうもの(笑)

ひばり 用心しといたほうがいいわよ(笑)

チエミ ありがとう。ドー(笑)

ひばり ドー……(笑)

チエミ キサン、ノニ、絶対このホクロ(右目尻のところ) きらいだけど、これを大きくしなさいっていわ



れたの。ちょっと大きすぎる？

ひばり その位置が魅力的なのよね。あたしもつけるわ。ザ・ピーナッツでいきましようか(笑)

チエミ ザ・ピーよ。ピーナッツは二人いるんだもの。ピーでいきましよう(笑)

ひばり ザ・ピーでいきましよう(笑)

チエミ ピー、ピー、ピーと……(笑)

(ひばりちゃんの左目尻のところ)

書きホクロをする)それはそうと、私がキサンとはじめてお話をしたのが、傑作なのよね。十四才の時、私

出ていた劇場の隣の大阪の大劇に、大の美空ひばりが出ていたので、ご挨拶に行った、その時あたしははてれちゃった、すごく(笑)

ひばり まさかくるとは思わなかった。それなのにさ、あたしの楽屋へわざわざきてくれたというんで、ものすごくそんとき私もてれちゃったわ。

チエミ だけども考えてみたら、そのときから仲のよくなっていたほうがよかったかもしれないけど、そのときはお嬢さんもあたしも十四で

しよう。お互にだんだんかわって、もしかしたら今ごろ仲が悪かったかもしれない。

ひばり 大人になってそういうふう

に付合ったほうが、なんかものすごく両方の心が、ほんとうの心がよくわかるし……。

チエミ それとね、もっと思い出の深いのは、あたしの死んだお母さんがまだ生きていて、あたしはまだなんでもなかったときに、お嬢のレコード「越後獅子の歌」を買ってきて、家でかけていたの。二番の歌詞に、

「きょうもきょうとて親方さんに、芸がまずいと叱られて……」

(と唄って) というので、ふつうだったところを、お嬢が、ゲーがま

ずいと……とうたっていたでしょう。フーン、この人はうまいわね、

ゲエが……とうたって、とっても自然にスムーズに、人の心に入っていく

られるでしょう。ただ文句をつなげているという感じを起させないで、そういうことを考えているのね、っ

てお母さんが言ったのを覚えているわ。

ひばり おほめを下さいましてありがとうございます。お姉さま。

へその緒事件

チエミ はあ、四カ月ばかりですが、